

交渉で問題延長貨車輸送暫定

日刊 動労千葉

80.8.13

No. 507

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)
(鉄電)三五八・九(公衆)四三三・七二〇七

無責任の極み！

動労千葉の追及に答えられぬ国鉄当局

八月一日、動労千葉中野書記長、山口交渉部長以下全執行委員および各支部長が参加して千鉄局四階団交室において「動労千葉申第一〇号」にもとづく第一回交渉を行った。席上、組合側は国鉄当局に対しパイプライン工事延期による、政府・公団からのジェット燃料暫定貨車輸送期限延長要請は拒否せよと強く迫った。これに対し、出席した野営業部長以下貨物課長等々は、「正式に延長要請はうけていない。要請があれば新たに検討する」と繰り返し返すばかりで組合側の追及に終始まともに答えることができず、時には沈黙をきめこむという不誠実な態度であった。ここに暫定貨車輸送問題に対する、国鉄当局としての主体性のなさ、無責任さをタナにあげた「国家的施策には国鉄労働者は黙って従え」といわんばかりの反動的姿勢が端的に示されている。

全組合員のみなさん。
「五六・三」暫定貨車輸送期限延長阻止へむけ、四つの視点をかけて闘い抜いた矜持にかけて、労農連帯の旗高く掲げ前進しよう。国鉄当局・「本部」反動分子一体となった攻撃を粉碎し、「五六・三」延長攻撃を阻止しよう。

むずかしい問題で答えられません — 営業部長 —

当局側——現在まで公団から正式な要請は受けていない。要請があった場合は新たな問題として検討したい。

組合側——国鉄当局は、われわれの反対を無視して暫定輸送三年間と提案し強行してきたではないか。新たな問題として検討するとはいかなる立場なのか。

当局側——仮に要請があった場合新たな問題として検討することになるという事であり、一般論としては国鉄に輸送義務がある。

組合側——国鉄当局はわれわれに閣議決定「暫定貨車輸送三年間」をうけて提案してきた。政府は仮りにパイプラインが完成しなくとも「三年で貨車輸送はやめる」と言明していた。貨車輸送は極めて政治的色彩の濃いものだ。しかも国鉄は赤字だと称し企業努力で克服しなければならぬと三万人合理化を強行せんとし、仲裁裁定の実施までも政府の言いなりになって、すべてを国鉄労働者にしわよせを強いている。一方でわれわれに合理化、低賃金を押しつけ、他方、燃料輸送で赤字の要因をつくるという無責任な国鉄経営政策を断じて許せない。要請があれば検討するとは何事か。パイプラインが完成しようがしまいが、「暫定輸送三年間」という期限を当局は守れ。三里塚空港がどうなるかが国鉄には関係がない。

当局側——われわれとしても公団の態度は遺憾であると思っている。今の段階ではこれ以上答えられない。・・・(と営業部長以後沈黙)

組合側は、その後、成田支部長の「土屋基地は現在設備強化をはかっている。当局としても『暫定輸送期限を守れ』と政府・公団に申し入れよ」と追及した。しかし当局側は具体的な答弁ができず、最終的に現在確認できることとして、①政府・公団からいまだ正式の要請はない。②労使間の約束は尊重する。③組合側は、「五五・一〇」とりわけ貨物関係の三九名要員減は、「五六・三」期限延長をみこした要員づくりである以上、撤回を要求する。以上の確認をもって交渉を打ち切った。

動労千葉

在の労働条件から見てもジェット燃料暫定貨車輸送の延長は絶対反対である。この目的は、動労千葉が、この問題の初期から闘ってきたことである。

仮にパイプラインが完成しなれば、当然、貨車輸送はやめるべきである。しかし、国鉄当局は、この問題の初期から、貨車輸送の延長を主張し、これを断つていない。

また、せつ迫する要員事情

燃料輸送延長
8月12日付
千葉日報